

書 評

日外アソシエーツ 編

『CD-県史誌 2 関東一近現代(通史/資料)編』

日外アソシエーツ, 2006年12月

CD-ROM 1 枚, 36,750円(研究者版),

56,700円(法人版)

本CD-ROMは、関東一都六県の近現代期の県史誌に記載されている目次・小見出し・図表キャプション・引用資料名・編集委員名などを検索可能なデータベースである。さらに本文から抽出したキーワードも検索できるため、利用者は探している事項(事件・元号年・地名など)や引用資料が、各県史誌のどこに掲載されているのかを、瞬時にパソコンで検索できる。つまり、関東一都六県の県史誌に関する「総索引」としての機能を、デジタル・デバイスで実現している。収録された県史誌は、以下の通り計84冊におよぶ。

茨城県 (21冊)

茨城県史 4～7

茨城県史料21～37

栃木県 (12冊)

栃木県史 通史編 6～8

史料編 近現代 1～9

群馬県 (11冊)

群馬県史 通史編 7～9

資料編17～24

埼玉県 (11冊)

新編埼玉県史 通史編 5～7

資料編19～26

千葉県 (8冊)

千葉県の歴史 6～7 通史編

25, 26, 28, 29, 31, 32 資料編

東京都 (5冊)

東京百年史 第2～第6巻

神奈川県 (16冊)

神奈川県史 通史編 4～7

各論編 1～3

資料編11～19

通史編27冊, 資料編57冊 …計84冊

紙媒体のみを用いていた時代には、研究の端緒

において、研究対象地域の県史誌のページを繰り、研究事象の概略を探り、さらに各県史誌で全国的な動向から、位置づけや意味を把握してきた。本CD-ROMは、1枚ずつページを繰る時間と労力を大きく軽減してくれる。お恥ずかしい話しながら、評者の本務校には、所在する埼玉県の県史すら十分に所蔵されていない。このため、他の都道府県を含む県史誌を閲覧する場合には、他学へ出講した際に、講義の合間を縫って上記作業を行ってきた。この作業効率が格段に上がったことに対し、編集・入力にあられた諸氏、企画・刊行にあられた出版社に素直に敬意を表したい。

本CD-ROMを実際に使用してみよう。まず、使用にあたっては、パソコンへのインストール(導入)が必要である。パソコンにCD-ROMを挿入すれば、(大抵は)自動的にインストールプログラムが起動する。プロダクトキーの入力すらないため、モニター画面上の指示に従えば、パソコンの使用に習熟していなくても、十分に導入が可能である。CD-ROMの内容を全てパソコンのハードディスク上に展開してくれるため、CD-ROMドライブを有さない小型軽量のノートパソコンでも使用可能である。最近、重いパソコンを持ち歩くことが苦になりつつあるが、CD-ROMドライブが付いていないものであれば、1kg未満の軽い機種も存在し、資料調査やフィールドワーク時にも本CD-ROMが使えるためありがたい。プログラムを起動すると、3ペイン(領域)の画面が現れ、①検索文字列を入力する領域、②結果の項目表示(インデックス)領域、更に③各項目に関する県史誌内での掲載位置に関する情報の表示部分(本文)とに区分され、検索条件付けも可能であるが、通常は特に設定することなく、初期設定の「任意一致」「全てのAnd」で充分であり、特にパソコンに詳しくなくても使用できるよう配慮がされている。

今、仮に「電気事業」の語で検索をかけてみよう。本評を書きながら、同時に検索をすると61件の事項が抽出された。この61件を眺めると、当然のことながら各県史誌の編集方針の差が如実に表

れる。各県ごとの抽出件数を挙げると、茨城7、群馬4、埼玉2、千葉40、東京5、神奈川3となり、千葉県が突出した結果となる。しかし、近代事象に関する関心の薄さから、用語・概念規定が共有されていない可能性もある。「電気」、「電灯」、「電力」、「電動力」、「電線」と思いつくままに検索をかけると、それぞれ、564件、176件、89件、1件、17件と、瞬時に結果が得られた。このように、ピンポイントで情報を絞り込むことに関しては、デジタル・デバイスの得意とする、非常に優れた機能を有している。

さて、この検索結果を眺めてみると、評者の勉強不足を恥じ入ると共に、新たな研究意欲が湧いてきた。例えば、従来の研究では、昭和恐慌期に電気料金の引き下げ運動である「電価争議」が、富山県を発端として全国に波及し、これが後の電力統合の誘因となったとされてきた¹⁾。しかしながら、評者は、これに先行する1917(大正6)年に栃木県、群馬県下で発生した「電価争議」の事例を紹介し、闘争戦術が昭和恐慌期のものとほぼ同一であることを指摘した²⁾。今回の検索結果によれば、少なくとも明治末～大正初頭にかけて、茨城県、東京府、そしておそらくは埼玉県下でも同様に「電価争議」が発生していたことが確認された。これらの事象の相互の関係を把握すれば、「電価争議」の意義や歴史的役割について、新知見を示しえるものと思われる。

最後に評者が実際に使用して、利用者側が留意すべき2点と、今後の改良を期待しての提言を2点述べて本評を締めくくる。留意すべき点として、まず第一は、当然のことながら各県史誌に記載されていない事項は、検索されないことである。従来、県史誌、市町村史誌の編集にあたっては、近代事象に対する関心は薄く、前近代までの質・量と比すると、どうしても見劣りがしてしまう。また、都道府県ごとの編集方針による取り上げ方の差異もあろう。電気事業などは、その典型的な例で、各道府県毎に10を越える事業者が存在していたにも関わらず、検索結果は千葉県を除けばごく僅かで、あきらかに関心が払われてこなかった。埼玉県下には公営の旧粕壁町営電気事業も存在していたが、検索結果からは確認できず、近現代を対象とした本CD-ROMの有用性そのものに対する疑問すら出てきかねない。第二に、利

用者側の意識改革の必要性を挙げる。本CD-ROMの使用に際しては、紙とデジタルという、メディア間の差異を意識しながら使う必要がある。かつて我々は、何冊もの製本された県史誌のページを繰り、眺め読みをしながら、関連事象のみならず、周辺事象についての新知識を“遅々と”得ることができた。本CD-ROMを使うことにより、確かに時間と労力は軽減されるが、「知識の幅を広げる」という点においては、紙媒体時代の優位性を失っている。ただし、過去の経験知が通じないことを自覚すれば、上述の検索事例のように、関連するであろう複数の語句で、しつこく・何重にも検索をすれば、デジタル時代の眺め読みが可能である。当然これらの検索結果には、相互に重複する項目が多分に含まれているであろうが、「知識の幅を広げる」という意味において必要であろう。

次いで、本CD-ROMの仕様改良に向けての提言である。しつこい・何重もの検索をすれば、相互に重複して事項が抽出されるはずである。この中から、重複項目を排除していくためには、各検索結果を一度クリップボード上へコピーし、エクセルなどの表計算ソフト上へペーストしてから、ソート(並べ替え)をすれば良い。重複事項が一箇所に固まって並べ替えられるので、容易に排除できるはずである。ところが本CD-ROMは、3ペインのうちコピーできるのは、③本文で、ここをコピーすると求める検索結果以後の項目について全てコピーされてしまう。実際に使用しながらでない、なかなか説明しにくい、「電灯」の検索結果から「電灯料金値下げ運動」のインデックスに対応する本文をコピーすると、全く無関係な「電話の開設」、「東海貯金銀行」などまでがコピーされてしまい、重複項目を排除する用をなさない。表示方法をデフォルトの連続表示から、単独表示に変えれば無関係な項目を表示しないが、今度は検索結果全てについて、1回ずつコピーをする手間が増えてしまい効率が悪い。是非、第二ペインであるインデックス情報をコピーできるよう仕様を改めることを希望する。最後は、追補版を出していただきたいという要望である。県史誌の刊行作業は各都道府県で依然進行中の所もあろう。上掲収録リストと、「千葉県史51巻の紹介」³⁾を比較しても、未刊書2冊は仕方が

ないにせよ、近刊書2冊が既に漏れてしまっている。本CD-ROMについて書店販売のルートがあるのか判りかねるが、評者は出版社のホームページ中の注文フォームから直接購入をした。この購入方法がメインであるならば、出版者側は、購入者の多くを把握できているはずである。「無料で」などと虫の良い要求をするつもりはないが、差分ファイルの配付やダウンロードを出来るよう、追補が可能な体制は整えられないであろうか。

現在、本シリーズは『関東一近世（通史／資料）編』と本編が発売されている。予定では東海地方の近世、近現代の2編が次回配本とのことである。この手の仕事は、膨大な手間と時間と資金が必要なことは重々承知の上であるが、できるだ

け早く、そして地域的な欠落が無いように、全都道府県史誌をカバーするデータベースが発売されることを切に望む。

(天野宏司)

[注]

- 1) 例えば、白木沢涼子「昭和初期の電気料金値下運動」歴史学研究660, 1994, 16～34頁。など。
- 2) 天野宏司「高圧送電網の形成と空間編成」、山根拓・中西僚太郎編『近代日本の地域形成』, 海青社, 2007, 109～126頁所収。
- 3) <http://homepage2.nifty.com/zaidankouko/kenshi51.htm> (財団法人千葉県史料研究財団HP, 2007年9月11日閲覧)